

文科省の松浦室長が資料42-1 (APRSAF-17) の本文を9分程で説明した後、APRSAF で CO-CHAIR を担当した池上委員長の感想及び質疑応答があり、30 分弱を要した。質疑応答には JAXA のアジア協力推進室の石田室長も参加した。

池上委員長: 田中さん、或は石田さんの方から何か？

JAXA 田中: あの、特に御座いません。

JAXA 石田: 特に御座いません。

池上委員長: あの、私も、あの、此れ、恒例によりましてですネエ、APRSAF の CO-CHAIR を致しました。で、もう一人のチェアマンはマイケル・グリーンって、彼はあの、オーストラリアのですネ、Department of Innovation Industry Science & Research のリーダーでありまして、彼と一緒に司会をしました。で、私、今迄 3 回出てるんですが、其の 3 回目の印象としてですネエ、随分大きく進展したナって云う風に印象を持ちました。で、あの、此れ迄はですネエ、APRSAF と云うのはですネエ、夫々の国のカントリーレポートが非常に面白いと。で、其れ以外はまあまあですネって云う感じだったんですが、今回はですネエ、其れ以外を含めて良かったって云う事と、それからあの、カントリーレポートが此れ迄に比べましてですネエ、課題を非常に絞った発表¹をして居りまして、で、あの、一、其

の結果として、お互いが議論をやり易い様な場が出来た様に思いました。で、何故そうなったかって言いますと、今回その豪州がホスト国と云う事で、メインテーマですネ、ホスト国の方から提案して貰うって云う事になってるんですが、其の提案がですネエ、The Role of Space Technology and Industry in Addressing Climate Change、で、此れはあの、今日の文章で言いますと別紙 2 かナ、別紙 2 の英文の方の一番頭に……ア、書いてありますネ。エエト、別紙 2 の英文で云うのは、此れは 6 頁に相当するんだナ、6 頁の処に書いてあるけれど…で、此れは今迄の流れから言いますと一寸違和感を感じずようなテーマなんです、あの、一、特にあの、オーストラリアの方はですネエ、今年雨が降らなくて大変で、其の結果草も枯れてしまったって云う様な事があって、其処で今、クラメット・チェンジ、あの、気候変動について非常に関心を持っていると言うのが一つ背景にあります。それともう一つは、どうも色々向うの、オーストラリアの皆さんと色々なお話しますと、ガバメントとインダストリが必ずしも上手く行ってないと、此れ何処の国でも良くある話なんです、そう云う事があって、あの、一、Role of space technology and industry って云うのを特に入れたって云う様な事が御座いました。で、然しあの、此れ、非常にテーマが明確でありましてですネエ、

¹ 具体性に富んだ報告だったと云う意味の評価をお話頂いたのだが、其の背景の分析が十分ではない様に思える。一つは、各国が経験を重ねる中で、宇宙と謂う資源をどう利用すれば良いのかと云う知見を深めた事が推定できる。又、日本の技術的な支援

が無ければ達成出来ない事であるが、其の見返りに何を要求されるのか不安があったものとも推定できる。APRSAF の様な美味しい話には裏が無い筈はないと思うのが通常の国際交渉なのだろう。其の不安が徐々に薄まった結果ではないだろうか。

散文的ではない、非常に明確だって云う事で、各国もカントリーレポートで、此れに合わせた様な形で報告したと云う事で、エー、あの、カントリーレポートも非常に充実して居た²様に思われます。で、又、今回の特徴、先程説明がありましたけど、招待講演としてですネエ、あの、タパンさん、彼はあの、アジア開発銀行の方なんですけど...で、其の背景としては JAXA とアジア開発銀行の間で、或る種の協定が出来ましてネ、協力して東南アジアに色々貢献してこうって云う協力にサインをして居りましてネ、まあ、そう云う様な背景があって、其のタパンさんが今回特別講演を為さったと云う運びであります。で、あの、従来と違ってたって云うか、まああの、アジア開発銀行にとって当たり前なんですけど、開発途上国への、具体的な、目標を絞った宇宙利用サービスをやると云う事が非常に重要だと云う事を言って居まして、つまりあの、宇宙技術の先に在るその、宇宙応用が非常に重要であって、其れを具体的にどう進めるかって云う事についてですネ、その、APRSAF の意見、或は JAXA の意見等を聞きたいと云うのが彼の主旨³であります。で、今迄あの、宇宙開発技術の

² 先に注記した様に、深い理由はもっと他に在って、討議のテーマを明確にした位で変化する様なものではないと思う。

³ アジア開発銀行は政府に貸し付けをし、其れを利息付きで確実に回収することが仕事である。長い付き合いを続けていく上で「貢献」に配慮する事は重要であるが、貢献する事は目的ではなく、税収の増大に役立つ政府のプロジェクトに貸し付けする事が目的である。宇宙活動が経済活動として成立するのではないかと

話が多かったんですが、彼にして見ますと、其れがどう使われるか、特に開発途上国にどう貢献するかって、具体的なものをですネ、挙げてくれないと、まあ我々動けないんだと云う事を言って居りまして、ですから宇宙応用に重点を置いた様な話があったと云う事で、今迄になく、ジュンシンセイ(?)のある話ムニャムニャ、を出してくれたと云う事です。それからもう一つは、今回あの、17回の APRSAF に臨むに当たりまして、文科省の方も、此れまあ宇宙開発本部、我々も含めてって云う事なんですけど、明確な方針を出しまして、一つは ISS の橋懸け役を明確にしなさいと。此れはあの ISS の特別部会の中でのリコメンデーションであったんですが、東南アジアとそれから ISS の懸け橋役を JAXA が設置すると云う風に行われると云う事をですネ、行なうって云う事を明確にしなさいと云う事が一点。それからもう一つは、相手が各国への人材育成を含む、産学連携プログラムである、先程説明があった様に UNIFORM プロジェクトを周知させなさいと。それからもう一つはですネエ、此れはあの、一般的な話になるんですが、まあ、現状、政治状況って国際的に不安定な中でですネ、APRSAF は此れフォーラムでありましてですネ、国連の会議とは違いますんで、あの、非常にソフトなチャンネルを作り易い⁴と云う事で、トクスガ(?)国際連携を深め

思い、JAXA と協定を結び、APRSAF に参加して居るのだろう。

⁴ 学者の集まりであって、政治家や外交官の集まりではない事を言いたいのだろうか。そう言いたいのであれば、「良からぬ事が出来ない様に、」と予算を絞られる事になるだろう。

る様な事をやって下さいと云う事でありまして、で、私の感じでは、今迄の...彼らの報告、或は会議に臨んだ印象としてはですネ、JAXA は良く其れに伝えてくれたと。多分、良く応えたって云うか、此の後で JAXA は具体的にどうするかって云う事については、多分、お二人は非常にご苦労されるんじゃないかと云う風に思うんですが、非常に良くやってくれた...別の言い方しますと、JAXA があの、のプレゼンスを上げると云う意味で、国際的に随分開く事が出来た⁵んじゃないかと云う風に思っています。それからあの、立川理事長もですネエ、カントリーレポートの中で、参加国への具体的なメッセージを出して居りました。で、一つは準天頂衛星の積極的な活用をですネエ、あの、支援致しますヨと。で、具体的にはあの、端末をですネエ、配りますと云う事を言って居られて、其の端末と云うのは今 GPS は大体 10 メートル位の精度なんです、其れをまあ 1 メートル位の精度に上げる事が出来る。それからその、一つ先の話なんです、1 センチメートル位の分解能も、まあ、出来る⁶と。其の端末を

⁵ JAXA が ISS 建設の一員として国際パートナーの中で優れた実績を残して来て居る事は、国際的なプレゼンスを示す上で十分な貢献であったと評価できる。其れを更に APRSAF の一員としてプレゼンスを示す努力は、日本の外交感覚が先進諸国だけを向いて居るとは言えない様にする効果位しか思い当たらない。

⁶ 米国は準天頂衛星を使わなくても 1 メートル以下の精度を実現して居り、其の電波は公開して居ない。どうして其の様な選択をしているのかを考える必要はないか。

関心があるアジアの配りますヨと云う事を立川さんが行って居られた。それから、もう一つは ISS の利用参加への具体的な提言をして居りまして、あの、オフィスも既に作って居りまして、一応マレーシアの方から蛋白質についての話があって、韓国の方もその、種を是非運んで欲しいと云う話があって、ですから此れをきっかけに、あの、東南アジアの国とその、ISS のつなぎ役をですネエ、JAXA がやりましょうと云う事をあの、立川さんの方から明確に提示されました。それから、もう一つはあの、クライメットチェンジについて、JAXA の、ま、地球観測で色々プログラムがある訳なんです、其れについて紹介があった⁷と。で、具体的にそう云う三つの、あの、ポイントを、実際のカントリーレポートの中で提示したって、斯う云う事も今までなかったんじゃないかって云う風に...で、後は、あの、全体としてですネエ、最後そのクロージング・レマークって云うのを...あのリマークをですネエ、マイケル・グリーンと私がやる事になったんで、私其の時言ったのは、非

⁷ 地球観測の商業衛星に対して米国政府は高分解能のデータの販売を禁止している。GPS でも、撮像画像でも、販売された後の追跡は困難である。「自国に対して良からぬ事を仕掛けようとする者の手に渡らない。」為に、其の様な制限を設けている。準天頂衛星と地球観測データに関し、JAXA は其の様な検討をした上で発言と考えていいのだろうか。民間航空機でさえテロの武器になる時代である。「いくら制限しても網の目を掻い潜るだろう。」と諦めてはならない。様々な「起こり得る事」を想定して置く事が重要なのである。

常に応用の方にシフトして来た。で、これは非常にあの、世の中の大きな流れに沿ってる。ですから APRSAF って云うのが、ひょっとしたらスペースアプリケーションのドライバになる⁸んではないかと云う印象を持ったと云う事が一点、それからもう一つは、先程のアジア開発銀行の話じゃないですが、アプリケーション考えた場合には、あの、利用する側の意見を良く聞く必要があるんじゃないか、そう云う指摘もあったし、そうして欲しい。ま、Listen to your customer. って云う形なんです、其れも伝えました。ア、...私の感想として述べさせて頂きました。それからもう一つはあの、先程言いました様に色んな、今、不安定な状態があるんですが、寧ろそのグローバリゼーションって云う風に言ってるんだけど、中々上手く行ってない⁹んだけど... Globalization by Space

⁸ 宇宙活動を地上での活動に比した時の魅力は何であるのか。打上と云う圧倒的に高価な手段を使って、高価な衛星を軌道の上に置かなければ何もできないのである。其れを資金力のない国々に使って貰うのが APRSAF である。商業的な魅力があるのだろうか。外交上の利益は何だろうか。衛星の利用機会をアジア各国に提供すれば、多くの人利用するようになる事は明白であるが、「ドライバになる」と安直に表現して良いのだろうか。

⁹ グローバル化は先ず企業で起こった。輸出を促進しようとしても、相手国の消費力が増さなければ、販売が伸びない事に遭遇したのである。輸出相手国の政府の関心事を理解せずに、販売する事が出来なくなったのである。一方、国の最大の関心事は、国が継続的に維持・発展する事であり、輸出企業ほどには諸外国政

Initiative って、要するにスペースって云う事で以てですネ、グローバリゼーションを考えた方が良くないかという事を、私のムニャムニャ、最後のクロージングリマークとしてムニャムニャ。で、それとですネエ、あの、触れては居るんですが、あの、APSCO 此れはあの、中国が事務局を持っている国際機関でありまして、此れはあの 2 年前の 12 月にあの、スタートして居りまして、今 8 カ国かナ...ま、参画してるんですが、ま、必ずしもあの、今、上手く行ってると言っていると、必ずしも行くと云うことではないんですが、中国のあの、中国からですネエ、今迄、あの、少なくとも私の知ってる限りにおいては、中国からの発表って云うのは殆ど無かったし、それから中から送られて来る人も、何か研究者を送るって云う事だった。今回はその APSCO の事務局長のドクター・サン・ウェイって云う方が参加してまして、紹介されました。で、其れについて言いますと、我々あの、APRSAF ですとですネ、各国のカントリーレポートを聞いても、中国については全然触れて居ないんですが、逆に APSCO の方から、例えばタイとかですネエ、ベトナムが相当その中国のプロジェクトの中に加わって、積極的にやってるって云う事が分かって、で、あの、斯う云う、何て言うんですか、東南アジアの人が如何に其の、中国、或は我々との関係にナースになってるかって云う事も分かりましたし、やっぱりアジア全体で色々やるって云う風になるとすれば、上手くそ

府の関心事を理解する必要がなさそうである。

の、協力出来る処は協力し¹⁰てやってけば、アー、アジアとしてはヒタコラス(?)になるんじゃないかと云う印象を持って居ります。で、あの一、リコメンデーションレポートの中にですネエ、例えば此れで言いますと...アア、そうか...エエト此れは別紙 2 のですネエ、4 頁の処に国際機関、下の方に国際機関で書いて御座いまして、此の 41 の処は、此れはアジア開発銀行、それから APSCO 等々へのカンシュウ(?) 今回の参加に感謝するって事で、42 が実は此れは後で追加した項目でありまして、勿論此れ、全員が賛成したって云う風にムニャムニャ。で、「中国国家航天局 (CNSA) が APRSAF に参加することを奨励し、APRSAF 事務局が CNSA を APRSAF-18 に参加するよう招待する事を働き掛ける。」って云う事を入れました。で、此れについてはですネエ、先程言いましたあの、ハッコウ(?)のサン・ウェイさんの意見を求めたんですが、「自分は中国の代表出来たんではなくて、あくまでも国際機関の事務局長として来たんだ。」と云う様な事で、最初非常にあの、神経質な発言をして居りまして、でも、此れを入れる事については、ま、全員が参加したって云う事でありましてですネ、あの一、非常に、当然彼も反対する

¹⁰ 「話せば解る。」との心算だろうが、其れは目標を共有した後の事である。ISS のパートナーの間では目標を共有する部分が多いだろうが、APRSAF では相反する目標も少なくなかろう。日本が APRSAF を通じて得られるものはアジア諸国に対する影響力だろうが、中国も極めて強く願望して居る事だろう。競争する処は多くても、協力し合う点は少ないのではないだろうか。

って云う事は此れは勿論...で、其の後色々あの、先程言いました様にやっぱり...政治的には色々問題が有るかも知れないけれど、或る種のパイプを作るところと云う事で、色々話をしましたら、あの、非常に寧ろ彼は喜んでおりまして、で、寧ろその、「APRSAF 色々やってるんだナ。」って云う事を彼自身もムニャムニャ。で、特にあの、大学の中須賀先生秋山先生が参加したんですが、まあ、彼らの発表はですネエ、此れはあの一、文科省のプロジェクトで発表したんですけど、ま、非常にプレゼンテーション、大学の先生って非常に上手いと云う事で、具体的だって云う事でですネエ、非常にあの、タン・ウェイさんも関心を持って、此のムニャムニャと云う事になってましたネ。全体として見ると、中国との関係ですけど、非常に微妙ではあるんですが、あの一、NASA の方も、少なくとも拒否の姿勢ではなくて、色々チャンネルを付けとくってな...で、我々も其れと同じ様なあの一、ミズ(?)でですネ、直ぐ何かをやるって云う事じゃないんですが、色々関係、パイプを作るところって云う事でやって居りまして、そう云う意味ではあの一、良かったんじゃないかと。唯、今後どうなるかってのは、此れは良く分からない。で、東南アジアの方の方はですネ、非常に中国を斯う云う形に入れたってのは良かったって云う様な意見¹¹を言う方も居られました。ですから、此れ、今後どうなるかって云う事ではあるんですが、今ん処大

¹¹ 「悪い」と云う意見は、其の発言だけでも聞く価値があるが、「良い」と云う意見は、其の細部を出来るだけ聞かなければ、情報としての価値が無いのではないだろうか。

きなリスクって云うのは一寸見えない様な事で、私としては良かったのではないかと云う風に思います。それからもう一つあの、オーストラリアって云うのは余り良く見えない国でありまして、先程言いました様に全然雨が降らなかった筈なんです、会議中は殆ど雨で、クライメート・チェンジの迫力が全然あの、無かったですけれど、で、あの、私もオーストラリア初めてだったんですが、あの、一つはですね、一寸驚きましたのは、あのー、終わった後のテクニカルトゥアーで、あの、VSSEC...で、此れはですネエ、あそこはビクトリア州なんです、**ビクトリア州のスペース・サイエンス・エドゥケーション・センタ**と云う所を見学しました。で、其処へ行って驚いたのはですネエ、此れはあのー、中学生高校生のスペース・サイエンスのエドゥケーションをやるって事なんです、もう極めて具体的でありまして、どう云う意味で具体的かと言いますとですネエ、**其処全体がミッション・トゥ・マース、要するに火星に行く**と云う事をあのー、テーマとしてプログラムが**組まれてる**¹²んです。ですから、火星に行くにはどうしたら良いかって云う、最初そのミッションについての議論をし、で、こうしよう云う事を決めて、で、管制室もチャンとありましてですネエ、で、管制室で色々制御をする。で、然もですネエ、其

の、色んなサンプルを回収した場合に、其れをどう分析するかって云う、其の分析装置の教育設備もあるとかですネエ、或は植物をどうするのって云う様な事を調べる様な、実験用のブースがあったり、ま、そう云うものが並んでおりましてですネエ、で、最後は何かテントみたいな処であの、赤い光しか無いんですが、無事に火星に着きましたと。で、その、あの、ミッション・トゥ・マースと云うのをテーマにして、訓練のシステムを作ってるって云う事で、正直驚きました。で、あのー、然ももう一つ驚いたのは、其の設備を作るのにあのー、エイトですネエ、4ミリオン・ダラー掛ったと、約、今で言うと3億5千万円位。で、年間で矢張りですネエ、メンテナンスにワン・ミリオン・ダラー位掛ってると云う事、8千万位掛ってる。で、其れはソフトウェア、シミュレーション用のソフトウェアをですネ、色々変えたりしなきゃいけないって云う事で、其の位掛ってる。もっと驚いたのは、メンテナンスやってるのは3人でやってると。で、其れは驚きました。其れはあの、3人で良くあそこまで出来るなって云う事で、アノ(?)通りなんです、で、もう一つは学生の反応はもう、非常に高くてですネエ、兎に角具体的に「火星に行こう」って云うプログラム、今、全部組まれてる訳ですから、まあ、彼等として見ると非常に人気が高くて、で、然も、あの、具体的には二つのチームを作って、其れを競わせるって云う様な事をやってるんで、多分テレビゲーム的なあの、面白さも其の中に入れてるんじゃないかって云う風に思いましたけど、そうやって火星に行く事を前提とした様な教育システムを作ってるって云う事

¹² 「火星の有人探査」とか「火星移民」と云う活動は、現時点で重点的に取り組むべき事ではないが、学生が「システム検討」の学習をする時に、極めて効果的に動機付け出来るのだろう。日本では「鳥人間コンテスト」や「ロボット競技会」が其の役を担っているのだろう。

で、一寸、私驚きました。で、そう云う事でありまして、全体としてですネエ、あの、非常に微妙な段階で、例えば韓国の人なんですけれど、やっぱり北朝鮮の問題何かもですネエ、色々気になるって云う様な事を、国連のまあ、中国の動きがどうのこうのと、色々あったんですが、先ず、宇宙開発って云う点ですネエ、まあ、非常に色々やっってこうって云う事、実は今、勿論大事な時期にあり、そう云う意味で今回はあのー、私の予想以上に前進出来たんじゃないかと云う風に思っています。で、後、此れはまあ当たり前なんですけれど、やっぱり東南アジアの人、或は韓国、或いは中国、或いはインドも同じなんですけど、日本に対する評価って云うのは未だ高い訳ですネ。其れはGDPも高いって事もあるし、それから何て言ったって言うても、その、イノベーションとインダストリーの分野では、その、日本は矢張り学べる事が多いと云う事を皆考えて居りまして、実は日本てのは大国グループの一つでありますんで、やっぱり其れに見合う様な、あの、日本としての活動を自信を持ってやるってのは必要であって、此れはもう、JAXAのムニヤムニヤ。今回JAXAのプレゼンス向上って云う点でも、プラスになってるって事で、私自身としてはまあ、非常に喜んでます。まあ、以上が私の感想ですけれど...あの、全体を通じまして、何かご意見御座いますでしょうか。

(此処迄 18 分掛り、事務局の説明の倍の時間を掛けた。)

井上: じゃあ、一寸質問ですけど、あのー、先ず、オーストラリアが気候変動の新しいイニシアティブを提案してるって事が書かれてるんですけども、此れはあの、国際的には地球の気候

変動については色んなものが動いてると思うんです。何か此れに新しいものがあるんですか。

JAXA 石田: はい、エエトあのー、此のオーストラリアの新しい提案は、特にあの、衛星データの利用、其れを気候変動にどう云う風に役立てるかと云う観点、然もアジアに焦点¹³を合して、で、まあ、アジアの各ユーザ機関が衛星データを使う、どの程度準備が出来てんのか、で、ホントにどう云う様に使っで行こうとしてんのか、で、使う場合に何が問題になりそうなのか、そう云った処を一寸レビューしましょうと云う提案なんですネ。まああの、オーストラリアとしてはアジアで、然も気候変動と云う新しいプログラムを立ち上げたばかりですので、で、そう云うオーストラリアの思惑もあって、で、そう云う提案をしてまして。で、勿論その、世界には色んな GCOS だとか或いは GEOSS だとか CEOSS だとか、そう云うのがありますけども、まあ、かなり斯う、地域にフォーカスして、で然もオーストラリアが関心あるのは、特に水とそれから森林管理と云う観点で、衛星データがこの地域でどんな風に使えるかってところをまあ、1 年間一寸検討して、で、其のやり方を報告をして、で、其れが若し良ければ、他の、まあ、水、森林だけじゃなくて、他の農業だとか漁業だとか、そう云ったとこに展開してこうと云う、そう云う提案で御座いましたので、あの、中々良い提案ではないかと云う風に思いました。

¹³ 長々回答なさっているが、「アジアに焦点を絞る」事以外に他の気候変動プログラムとの相違が無い様に聞こえる。唯、此のプロジェクトは世界規模で取り組む処に価値があるのではないか。

井上: エエト、それから二つ目は、4 頁の処に「プロトタイピング」と云う言葉が使われてるんですけど、これはどんな活動なんですか、何かあの、此方、JAXA としても何かの支援をして、何か動かし始めると云う様な意味なんですか。

JAXA 石田: はい、あの、此の「プロトタイピング」の意味なんですけども、ま、思考システムを作ると云う、まあ、そう云う意味で御座いますが、JAXA の中では利用を進めるに当たって4段階を定義して居ります。先ず一つが能力開発。次があの一、まあ、利用システムの構築、それから利用の実証、で、最終的な行政利用と、此の4段階で利用を進めていくと、で、此のプロトタイピングは2番目の利用システムの構築に当たります、ま、実際にこう、利用に当たって、小さな規模のシステム、或いはモデルを作って、実際に部分的に試行して見て、で、其れの問題或いは有効性を確認すると。で、通常此れに1年から2年掛けて居ります。で、それからプロトタイピングの場合の特徴としては、其の相手の行政機関と、それから宇宙機関、それから其れを支援する技術支援機関が、まあ、一種の国際コンソーシアムを組んで、其れで1、2年間共同で作業すると。で、其れで良いものが出来れば、相手の行政機関に其のシステムとモデル、其れを引き渡すと云う事でやって居ります。で、まあ、2008 年から此れを開始してまして、で、ベトナムで森林管理と水資源管理、此の二つのプロトタイピングを終了しまして、で、其の二つの成果とシステムをベトナムの行政機関に引き渡したと云う事御座います。で、此れを他の、タイだとかスリランカだとか、インドネシアだ

とか、そう云った処に今展開しまして、で、現在は8つのプロトタイピング活動が進められて居ります。

井上: そうすと、具体的には JAXA から人がそちらに行って、活動してると云う様な事がある。

JAXA 石田: はい、そうで御座います。其れとまあ、相手からも行政機関の責任者が出て来て、それからまあ、大学研究機関からも、支援の方が参加して頂いて、で、定期的に会合を持って、で、それからシステムも作りながら...活動して居ります。で、まあ、プロトタイピングの場合にはかなりまあ、JAXA が支援をしてると云う事で御座ます。

井上: もう一つ、あの、一寸細かい質問ですけど、あの、別紙2の1頁の処に NARL って云う機関が出てるんですけど、此れは...それから、Formosat-2 って云うんですけど、此れは具体的には何処の国で、どう云うものでしょうか。

JAXA 石田: はい、此れはあの、台湾のですネエ、国家先端研究所、National Applied Research Laboratory で御座います。で、Formosat と云う小型衛星。で、分解能が多分、20 メータと、パンクロで5メータ位の、まあ、そう云う衛星を打上げて居ります、で、つい最近センチネルアジアに参加して、データを提供し始めてると云う事で御座います。

池上委員長: 先程、あの、イニシアティブについてもネ、ワークショップ時ですネ、会場の方から「もう色々有るにも拘らず、今からイニシアティブって一体何なんですか。」って質問出てるんです。だから、今迄 APRSAF の伝統として、開催国は何か必要とすると云う、何処でもやってましてね。で、其れを

きっかけに宇宙活動に入ってくって云う、或る意味じゃ開発途上国の入り口の様な処もあるのかナァと云う事で、何となく納得...納得したって云うのかナァ、納得した面もありますヨネエ。

JAXA 石田: まあ、それから後、まあ此れ迄のイニシアティブは、その、センチ(ネル・アジア)にしても、SAFE にしても、SEDA にしても日本が主導で、まあ、やって来てまして。で、このAPRSAF を其れに展開する為に、やっぱり他の国のやっぱりイニシアティブを奨励しようとする事で、まあ、働き掛けて来て居りました。で、ようやくオーストラリアがまあ、日本国以外では初めてイニシアティブの具体的な提案があったと云う事で、非常に歓迎¹⁴して居ります。

池上委員長: 私なんかは、その、別に JAXA に、「日本に」と言うよりもっと開いた方が良くないか、多分そう云う事は考えてると思うんですけどネ。世界中で色んなムニャムニャ。だから、クライメットチェンジはネ、オーストラリアの人は一番雨の事を心配してましたですネ。で、それとあの、2 番目の政府プロジェクトのプロトタイプなんですが、で、此れもあ

¹⁴ 日本で教育を受けて来た者の感覚として違和感を覚えずに居るのだろうが、十分に深い知識を持たない領域で主体的にプログラムを起こす事を期待するのは如何なものか。最初は真似から始まり、同じ事を何度も繰り返すうちに深い洞察が出来るようになり、似た様なものを新規に設計して失敗をし、失敗を通じて更に深く学ぶ事が出来る。教えられた事を繰り返しているうちは獨創性に期待する事は出来ないのではないか。

の一、先程アジア開発銀行の話をしましたけれど、此れもアプリケーションと云う点では非常に評価するけれど、唯、ホントにその、使おうとしてるそのカスタマですネ、意見を取り入れてくかどうかについては疑問ですネ。云う様な感じです。一応カスタマ、ホントに使いたって言うカスタマの、やって欲しい様な事を上手く取り入れてやればネ、ホントクタイシン(?)が上手く行くんじゃないかとムニャムニャ。其の様な議論を致しましてムニャムニャ。それからプロトタイプって言葉は割と使うんだネ、宇宙で。

JAXA 石田: ええ、宇宙では良く...ええ。

池上委員長: フランスの国会議員が来た時に、あの、国はプロトタイプ迄で、其れ以上は民間がやるべきじゃないとか云う様な意見をムニャムニャ。

JAXA 石田: まあ、良くあの、衛星でもプロトタイプ・モデルと云う事で、EM の事を言ったりしてますので...

池上委員長: でも、でも、斯う云う言葉はネ、あの、特に日本語でやる場合も含め、良くディフィニションしといて欲しい。みんな勝手に使ってる可能性がある。

JAXA 石田: そうですネ、はい、気を付けたいと思います。

池上委員長: 他に...何か?スイマセン、一つですネエ、私の友人がメルボルン大学の今、プロフェッサをやって居ましてですネ、で、最初の日には彼を訪ねてオーストラリアの大学の状況について聞いたんですけど、一寸私かなりショックを受けたのはですネ、今、メルボルン大学は学部を含め、50%以上の学生がですネエ、東南アジアから来てるんです。

で、あの、何でそうなったか。で、日本も留学生十万人計画とか三十万人計画やってるんですネ。少なくとも大学に聞いて見ると、必ずしも上手く行ってるとは言えない。で、多分ですネエ、あの、オーストラリアの場合は国際経験豊富な教員が沢山いるって云う事で、まあ、で、どれはあの、背景がありまして、15 年位前はですネエ、オーストラリアは自分の国の大学に力を入れるって云う政策を持って居なかったんです。ですからオーストラリアで優秀な人は、その、学部は出ても其の後は、昔だとイギリスへ行って、で、其の後はアメリカとかイギリスとかヨーロッパの企業に入る、或いは研究機関に入ると云う事を容認して居たんですが、15 年位前から其の方針を変えましてですネエ、あのー、まあ、豪州も高等教育に力を入れようって云う風に入ってた訳ですヨ。で、其の中で、特に東南アジアの学生を呼び込もうって云う、一つの戦略があってですネエ、で、あのー、其れを始め...あの、何故私そう云う事言うかって言うと、あの、会津大の学長やってても、やっぱりあそこも外国の学生入れようとしたんですが、その、オーストラリアの学長デディゲーションてのがもう、あの、東南アジアを回らしてですネ、あそこは 41...ア、国立大学が一つと後は州立大学 40 かな...で、キャンペーンをやりましてですネエ、で、東南アジアの人に対して、一流の学生はまあアメリカに行くだろうと。止むを得ない。で、二流の学生は今迄日本だったかもしれないけど、是非オーストラリアに来てくれと。オーストラリアは英語でやるからネ、英語は今後のランゲッジだからネエ、もう絶対オーストラリアに来た

方が得だって云うんで、キャンペーン始めて、私としても非常に危機感を持ったんですが、どうも其れが今、あの、順調に行ってる様です。で、一つに矢張り先程言いました様に、あのー、オーストラリアのプロフェッサって云うのは大体外国に行って色々経験を積んでる人なんで、多分其れで上手く行ってるんじゃないかと。唯、学部を含めてですネエ、5 割以上が東南アジアの学生だと。で、ドクター、マスター、此れは又優秀な奴が居ると。あのー、やっぱり日本の場合ですと、大学教員の国際経験、此れ、どうやって補って良いか良く分からないんですけれど、其処を高める様な事をやらないと外国から来ない。或いは先行きインパクセイガ(?)無いって事が...で、何かオーストラリアの方も、日本からは学生が来ないなんて云って、色々...最近何が起きたんですかねって様な話をしている様であります。.....そう云う事ですが、何か御座いませんでしょうか?...ア、それではどうも有り難う御座いました。ムニャムニャ。